

学校だより

令和3年10月1日(金)

市川市立市川小学校

校長 蜂須賀 久幸

プラタナス



No.18

<https://ichikawa-school.ed.jp/ichikawa-sho>



誰かをしあわせにする、自分が幸せになる、恩送りとは？

校長ブログ(9/10付)に似たことを書きましたが、最近『恩送り』という言葉を目にする機会が何度かありました。電車の中で読むスマホ漫画にも2度ほど登場しましたし、ある機関紙に掲載された角田信明氏(格闘家)の話にも見る事ができました。

『恩返し』はよく使われる言葉ですが、『恩送り』は耳慣れない言葉かもしれません。漫画「江戸前の匂」の登場人物のセリフを引用すると、“ご恩送りというのは、自分の受けた恩を他人に与えるという意味だ。そして、他人に与えた恩はいつか自分に返ってくる。”となるようです。『情けは人の為ならず』に似ていますが、言葉に温かみを感じるのが『恩送り』といえるでしょうか。

作家 井上ひさし氏には、次のようなエピソードがあります。生意気盛りの15歳の時、岩手県一関市の本屋に入って、こっそり国語辞典を持ち出そうとしたそうです。いわゆる万引きです。店番をしていたおばあさんがそれを見つけ、ひさしを店の裏手に連れていき、薪割りをさせたといえます。ひさし自身、罰だと思ったそうです。でも、薪割りが済むと、おばあさんはひさしに国語辞典をくれるというのです。「働けばこうやって買えるのだよ」と言って、辞書代を差し引いた労賃までくれたそうです。のちに作家になったひさしは、「おばあさんは、私に誠実に生きることの意味を教えてくれた。いくら返しても返しきれない大きな恩」と回想したといえます。

さて、大人も子供も、年月の長短関係なく、様々な人のおかげでここまで生きてこられたと考えられます。様々な人の中には、名前も顔も知らない人だっていることでしょうか。知らないうちに助けられていて、今も気づかずにいることだってあるかもしれません。そう考えると、「恩送り」は自然な流れの中にあるようにも思えてきます。ですから、「恩を受ける」ではなく、「恩を受け継ぐ」と考えてみると、少し肩の力が抜けていくような気がします。少しだけ嬉しいことをしてもらったと感じたら、急がなくてよいので、ほかの誰に自分から嬉しいことをしてみようということを心がけたら、幸せな気分になれて、幸せな社会が築けそうです。さらに、送った恩はめぐりめぐって誰かを幸せにして、やがて自分や家族に返ってくるかもしれません。

親から受け継いだ「命」を「恩」ととらえれば、大切に育てて次世代につないでいくことも立派で重要な『恩送り』ではないでしょうか。今年度の後半は、この『恩送り』という言葉に大事にしていきたいと思えます。

スクールカウンセラーが月1回来校します

スクールカウンセラーとは、学校内において児童・生徒及びその保護者対象に、臨床心理に関する専門知識を生かしながらサポートしていく専門家を指します。心理・発達面において困り感や悩みを抱える人々を、専門的な知識・技法を使って支援する役割を担っています。面接相談が中心業務ですが、事例に関するカンファレンスや教職員・保護者・地域に向けた研修や講話など幅広い活動を行います。扱うケースは、問題行動や発達上の課題、不登校、心のケアなど多岐にわたり、第一中学校から月1回来校・勤務します。

カウンセリング等、希望がございましたら担任までお申し出ください。(児童申出も可)



松久みゆき先生



■感染症の状況によっては
予定が変更になります。

10月の生活目標
進んで学習に取り組もう

1	金	朝会なし、短縮4校時日課	15	金	前期終了式(朝会)
4	月	通常日課	18	月	後期開始、教育実習(~11/13)
8	金	4年校外学習予定	20	水	委員会活動、5年すこやか検診
14	木	3年校外学習予定	22	金	2年校外学習予定
			26	火	6年修学旅行(南房総)~27日
			29	金	1年校外学習予定

★6日と13日は、タブレット活用研修のため、特別時程の5校時日課(14:15下校)とします

発想の転換で、新たな気づきとモチベーションアップを

長期休業やGWの真ん中あたりで、「もう半分終わっちゃった」あるいは「まだ半分残っている」などと思うことはないでしょうか。また、何かにチャレンジしようと頑張っても、何となく苦手意識が先回りしたり、「どうせ」とか「でも」とかいう消極的な感情や発想によって前に進むことが何となく躊躇われたりすることがあります。ただ、そういう時こそ、自分を奮い立たせる「発想の転換」が大事になるような気がします。ポジティブシンキングであるためには、ある意味「気の持ちよう」なのではないでしょうか。次のような例をどう感じるでしょうか？

■行商人が、ほかの国に靴を売りにいったところ、誰も裸足でした

A:「この国は誰も靴を履いていない。だからきつと売れないだろう」

B:「この国は誰も靴を履いていない。だからたくさん売れるだろう」

靴文化が浸透していない国では、そもそも靴を履こうとしないだろうから売れるはずがないと考えるか、まっさらなこの国はビジネスチャンスで溢れているととらえるかで可能性が広がりますし、無に帰すともいえます。

■自分のミスで、仕事が暗礁に乗り上げてしまいました

A:「最悪だ！今すぐ逃げ出してしまいたい。」

B:「このピンチを乗り越えたら、もう怖いものがない。」

ピンチに陥ったとき、ストレスレベルはマックスになり、時に自己嫌悪で潰されそうになることもあります。しかし、対応しなければならぬ状況が続くのであれば、今後のために学ぶチャンスだとスイッチを早く切り替えるに越したことはありません。

「柔軟な発想」「固定観念や思い込みからの脱却」「パラダイムシフト」などがビジネスの活性化のために叫ばれることがあります。コロナにより自宅勤務が増えたことで、マンシヨンの間取りも変わってきているといえます。あえて室内廊下を設けず、部屋の一部として活かすことが増えているようです。これも、ニーズに合わせた「発想の転換」と言えるのかもしれないですね。

大人・子供関係なく、「発想の転換」「逆転の発想」を今一度意識したいと思います。そのためには、

- ① 口癖や無意識に行われている思考を見直してみる。
- ② 自分が誰かを否定してしまったり、決めつけてしまったりする思考になった時には、よい意味で「でも」や「けど」という言葉を使って立ち止まって考えるようにする。
- ③ 自分の立場・感情・目線で考えがちのところを、様々な視点(ミクロで見ると見る虫の目・俯瞰する鳥の

目・流れを見る魚の目)で物事を見るようにする。もしかすると、新しい気づきや発見があるかもしれません。